

# 中央社保協ニュース

18-7号 発行・2019年2月22日 中央社会保障推進協議会

## 2月20日/25条署名・介護署名提出行動に120名参加

### 25条署名82,660筆、介護署名163,318筆を提出！

2月20日(水)、25条署名と介護署名の提出行動を国会内で行いました。中央社保協・全日本民医連・全労連が主催し、全国から120名を超える仲間が参加しました。

午前の学習会では、全日本民医連林次長より「介護保険の見直しと新しい処遇改善について」の講演で学び、全労連の岩橋副議長より「全労連・介護労働実態調査の中間報告」についての報告を受けました。

12時からの署名提出集会では、中央社保協代表委員・住江憲勇氏(全国保団連会長)のあいさつで、「法人税の引上げ」「アメリカから武器の爆買いをやめる」ことで社会保障を拡充する予算は生まれるので消費税10%アップは必要ないと述べました。集会には、日本共産党から畑野君枝衆議院議員、倉林明子・田村智子参議院議員が出席し、私たちの署名を受け取っていただきました。



各地からは次のような報告がありました。「介護利用料3割負担で、訪問リハを断るなどサービスの中止・変更する人」が生まれるなど30%の利用者に影響が出ている(神奈川)、国の「インセンティブ改革」を受けてケアマネに「さらに4割のプランを減らすよう」に行政からの指導が入っている(岩手)、グループホームでは「2交代制、月5回の夜勤で勤務が終わるとへろへろ状態」になる勤務実態がある(北海道)の報告のほか、福祉保育

労や生協労連からの参加者から報告がありました。

最後に中央社保協・是枝事務局次長より、「各地での医療や介護実践の中で、具体的な事例を発信することを通じて“この方をどうするのか”との問いかけで、社会保障のあり方の政治を変えていこう」と呼びかけられました。

午後からは、各地の国会議員や厚労委員の議員の皆さんを訪問し、社会保障改善、介護改善の訴えをおこないました。

